

設計調書 : 道路詳細設計

業務番号: \_\_\_\_\_

業務名: \_\_\_\_\_

委託者: \_\_\_\_\_

受託者: \_\_\_\_\_

作成日: 令和 年 月 日

	照査技術者	管理技術者
受託者印		

# 道路詳細設計調書 (その1)

( / )

業務名	所在地		受注者名		施工箇所	起点側			
						照査・管理技術者名		終点側	
路線名	事務所名		作成年月日		平成 年 月 日				
延長	新設(暫定・完成)		遮音壁の設置の有無		付帯施設の有無				
	拡幅の区分								
設計条件	道路規格	第 種 第 級	設計速度	km/h		道路分類			
	計画交通量(大型車混入率)	年度	地域分類			積雪寒冷地の区分			
	自転車通行帯の有無			小段排水溝の有無					
	横断面の構成	土 工 部			橋 梁 部				
幾何構造	最小曲線半径	最小曲線長		最小視距	最小緩和曲線長				
	最急縦断勾配	同左延長		最小縦断曲線長	最小縦断曲線半径		凸 凹		
	横断勾配	片勾配の最大値	最大合成勾配	片勾配の すり付け率	登坂車線の 要否				
土工	主たる地質	盛土部 切土部		盛土 切土		土砂		軟岩	硬岩
		のり勾配		盛土 切土		盛土 切土		盛土 切土	
	のり面工の種類	土砂	軟岩	硬岩	小段の幅員	小段の高さ			
	最大盛土高	最大切土高		軟弱地盤対策、地すべり対策		防雪施設の要否			

※下段は、基準値(特例値)を記入すること。

# 道路詳細設計調書 (その2)

( / )

舗	舗装の種類	交通区分	設計 C B R	主要	盛土量	切土量	のり面積	切土	盛土
	舗装構成	路盤の種類	上層	数量	舗装面積	車道 歩道	横断函梁数	箇所延長	土工橋梁トンネル
装	連断層 凍上抑制層 有無	自歩道の舗装	下層	排水工	降雨強度	路価 隣地	断而 決定 概要	備考欄	
	<p>主要流末概念図</p> <p style="text-align: right;">【流末排出量 (m3) / 流末可能通水量 (m3)】</p>								
線 形 概 要	測点								
	縦断 線形	勾配							
	距離								
平面線形									

※下段は、基準値(特例値)を記入すること。



## ボックスカルバート詳細設計 (その2)

2. 設計条件

2-2. 基礎工

									適用基準等
基礎工	形式	直接, 杭 (                    ), 置換工, 地盤改良工 (                    )							
	杭種・杭径								
土質定数		土質名	層厚 (m)	平均N値	単位重量 $\gamma$ (kN/m <sup>3</sup> )	内部摩擦 角 $\phi$ (°)	粘着力 C (kN/m <sup>2</sup> )	変形係数 E <sub>0</sub> (kN/m <sup>2</sup> )	
	1層								
	2層								
	3層								
	4層								
	5層								
	6層								
支持地盤	許容支持力	Q=                    kN							

注：適用基準等の記載例  
道示 I - 1 ~ 2 (適用基準短縮名一記載頁) で表示する。

注：杭基礎は「杭基礎設計調書」を、地盤改良工は「地盤改良工設計調書」を参照のこと。

## ボックスカルバート詳細設計調書 (その3)

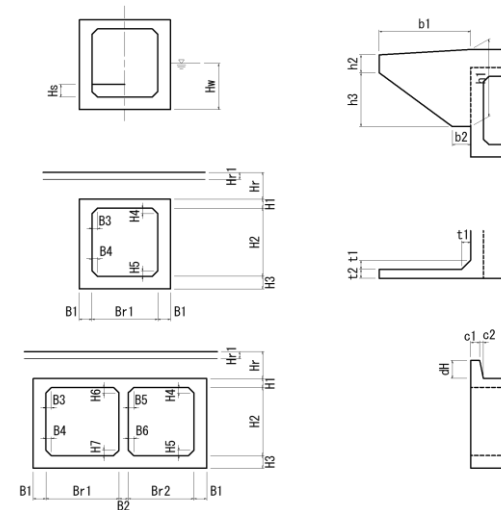
### 3. 形状寸法データ

本体	H <sub>r</sub> (土被り深さ: 舗装厚含む)	m	H <sub>4</sub> (側壁上部ハンチ高さ)	m	H <sub>w</sub> (水位高)	m	B <sub>4</sub> (側壁下部ハンチ幅)	m
	H <sub>r1</sub> (舗装厚)	m	H <sub>5</sub> (側壁下部ハンチ高さ)	m	B <sub>r</sub> (内空幅)	m	B <sub>5</sub> (中壁上部ハンチ幅)	m
	H <sub>1</sub> (頂版厚さ)	m	H <sub>6</sub> (中壁上部ハンチ高さ)	m	B <sub>1</sub> (側壁厚さ)	m	B <sub>6</sub> (中壁下部ハンチ幅)	m
	H <sub>2</sub> (内空高さ)	m	H <sub>7</sub> (中壁下部ハンチ高さ)	m	B <sub>2</sub> (中壁厚さ)	m		
	H <sub>3</sub> (底版厚さ)	m	H <sub>s</sub> (内部盛土高)	m	B <sub>3</sub> (側壁上部ハンチ幅)	m		
ウイング	左口左側		左口右側		右口左側		右口右側	
	b <sub>1</sub> (ウイング張出し幅)	m	b <sub>1</sub>	m	b <sub>1</sub>	m	b <sub>1</sub>	m
	b <sub>2</sub> (ウイング底部切り欠き幅)	m	b <sub>2</sub>	m	b <sub>2</sub>	m	b <sub>2</sub>	m
	h <sub>1</sub> (ウイング高さ)	m	h <sub>1</sub>	m	h <sub>1</sub>	m	h <sub>1</sub>	m
	h <sub>2</sub> (ウイング先端高さ)	m	h <sub>2</sub>	m	h <sub>2</sub>	m	h <sub>2</sub>	m
	h <sub>3</sub> (ウイングテーパー高さ)	m	h <sub>3</sub>	m	h <sub>3</sub>	m	h <sub>3</sub>	m
	t <sub>1</sub> (ウイングハンチ幅)	m	t <sub>1</sub>	m	t <sub>1</sub>	m	t <sub>1</sub>	m
t <sub>2</sub> (ウイング壁厚さ)	m	t <sub>2</sub>	m	t <sub>2</sub>	m	t <sub>2</sub>	m	
土留壁	左口左側		左口右側		右口左側		右口右側	
	c <sub>1</sub> (ウイング先端幅)	m	c <sub>1</sub>	m	c <sub>1</sub>	m	c <sub>1</sub>	m
	c <sub>2</sub> (ウイングハンチ高さ)	m	c <sub>2</sub>	m	c <sub>2</sub>	m	c <sub>2</sub>	m
	d <sub>H</sub> (土留壁高さ)	m	d <sub>H</sub>	m	d <sub>H</sub>	m	d <sub>H</sub>	m

### 4. 安定計算結果

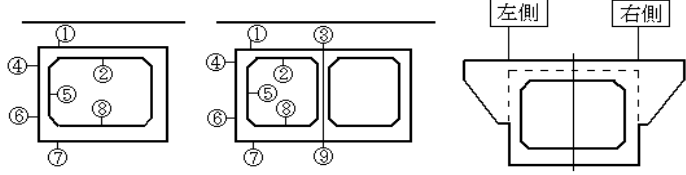
直接基礎, 地盤改良工	
荷重ケース	
最大地盤反力度 Q <sub>max</sub>	kN/m <sup>2</sup>

杭基礎	
荷重ケース	
支持力 R <sub>max</sub>	kN/本
引抜力 R <sub>min</sub>	kN/本
水平変位 δ	mm



## ボックスカルバート詳細設計調書 (その4)

5. 部材応力度 5-1. 荷重ケース：常時、衝突時、L1地震時、施工時、その他 ( ) <当該ケースに○印>

概 要 図			寸 法 図									設 計 位 置 図				
																
部 材			頂 版			側 壁			底 版			ウ イ ン グ				
設 計 位 置			①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	左口左側	左口右側	右口左側	右口右側	
断 面 図																
断 面 力	M	kN・m														
	N	kN														
	S	kN														
鉄 筋 量	必 要	cm <sup>2</sup>														
	最 小	cm <sup>2</sup>														
	設 計	cm <sup>2</sup>														
	鉄 筋 径	mm														
	間 隔	mm														
	か ぶり	mm														
応 力 度	設 計 値	$\sigma_c$	N/mm <sup>2</sup>													
		$\sigma_s$	N/mm <sup>2</sup>													
		$\tau_m$	N/mm <sup>2</sup>													
	許 容 値	$\sigma_{ca}$	N/mm <sup>2</sup>													
		$\sigma_{sa}$	N/mm <sup>2</sup>													
		$\tau_a$	N/mm <sup>2</sup>													
設計計算書・頁																
設計図・番号																

# ボックスカルバート詳細設計調書 (その5)

モーメント図	鉄筋組合せ図	鋼材のかぶり図



# 擁壁工詳細設計調書 (その1)

## 1. 一般事項

業 務 名	
施 設 名	
路 線 名	
所 在 地	
距 離 標	
事 務 所 名	
受 注 者 名	
照査・管理技術者名	
設 計 年 月 日	

## 3. 土砂データ

項 目	単 位	自 然 地 盤	裏 込 め 土	基 礎 地 盤
単 位 重 量 ( $\tau$ )	kN/m <sup>3</sup>			
粘 着 力 (C)	kN/m <sup>2</sup>			
せん断抵抗角 ( $\phi$ )	度			
変形係数 (E <sub>0</sub> )	kN/m <sup>2</sup>			
変形係数算出方法	—			
一軸圧縮強度 (q <sub>u</sub> )	kN/m <sup>2</sup>			

## 2. 構造条件

擁 壁 形 式	逆T式擁壁			適 用 基 準 等
設 置 区 分	背面盛土・背面切土・橋梁等取付・その他 ( )			
製 品 区 分	工場製品・場所打ち			
標 準 設 計	無・有	標準設計図No.		
基 礎 工	形式	直接 , 杭 ( ), 地盤改良 ( )		
	杭種・杭径			
盛 土 高 さ	H <sub>0</sub> =	m	法 面 勾 配	N =
	上載分布荷重P =		kN/m <sup>2</sup>	
浮力考慮位置	H <sub>w</sub> =	m	突 起	無
コンクリート強度	σ <sub>ck</sub> =	N/mm <sup>2</sup>		
鉄 筋 材 質	JIS G3112 (種類)			
設計水平震度	地域別補正係数	C <sub>z</sub> =		
地 盤 種 別	土 質		層 厚	平均N値
	第 1 層			
	第 2 層			
	第 3 層			
	第 4 層			
種別判定	I 種 , II 種 , III 種			
液 状 化 判 定	有・無			

注：適用基準等欄の記載例

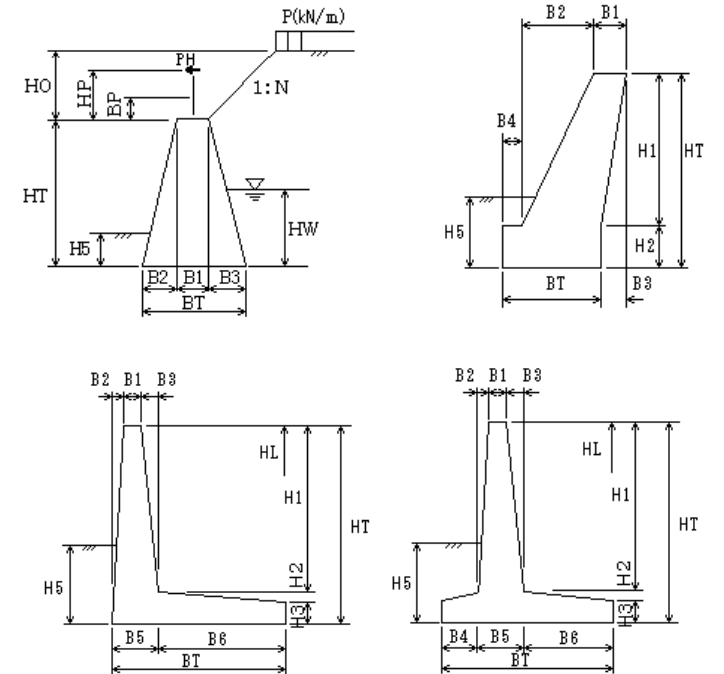
道示 I - 1 ~ 2 (適用基準短縮名 - 記載項) で表示する。

注：\*は杭基礎設計調書を参照のこと。

## 擁壁工詳細設計調書 (その2)

### 4. 形状寸法データ

擁壁延長	TL =	m	前面土砂高	H0 =				m
防護柵作用荷重	PH =	kN/m	作用位置	HP =	m、	BP =	m	
断面 (大側)	HT (擁壁高)	H1 (たて壁高)	H2 (底板厚)					
	m	m	m	m				
	BT (底面幅)	B1 (天端幅)	B2 (テ-パ <sup>-1</sup> )	B3 (テ-パ <sup>-2</sup> )	B4 (つま先版幅)	B5 (たて壁底部幅)	B6 (かかと版幅)	
	m	m	m	m	m	m	m	
断面 (小側)	HT (擁壁高)	H1 (たて壁高)	H2 (テ-パ <sup>-3</sup> )	H3 (端部底板厚)				
	m	m	m	m				
	BT (底面幅)	B1 (天端幅)	B2 (テ-パ <sup>-1</sup> )	B3 (テ-パ <sup>-2</sup> )	B4 (つま先版幅)	B5 (たて壁底部幅)	B6 (かかと版幅)	
	m	m	m	m	m	m	m	



### 5. 安定計算結果

直接基礎安定計算結果総括表							
ケ	一	ス	常時			地震時	
浮	力		有	無	許容値	有	無
偏	心量(c)		(m)		B/6=		B/3=
滑	動		安全率				
最大	地盤		反力度 (kN/m <sup>2</sup> )				
鉛	直		支持力(Q) (kN)				

杭基礎安定計算結果総括表							
ケ	一	ス	常時			地震時	
浮	力		有	無	許容値	有	無
杭頭	押込 (kN)						
	反力 引抜 (kN)						
水	平		変位 (mm)				

# 擁壁工詳細設計調書 (その3)

## 6. 部材応力度

概 要 図			寸 法 図				設 計 位 置 図								
							フ ー チ ン グ				突 起				
部 材			壁				前 趾				後 趾		突 起		
設 計 位 置			基 部		基部より m		基部より m		前 趾		後 趾		突 起		
荷 重 状 態			常 時	地 震 時	常 時	地 震 時	常 時	地 震 時	常 時	地 震 時	常 時	地 震 時	常 時	地 震 時	
断 面 図															
断 面 力	M	k N/m/m													
	N	k N/m													
	S	k N/m													
鉄 筋 量	必 要	cm <sup>2</sup>													
	最 小	cm <sup>2</sup>													
	設 計	cm <sup>2</sup>													
	鉄 筋 径	mm													
	間 隔	mm													
か ぶり	mm														
応 力 度	設 計 値	$\sigma_c$	N/mm <sup>2</sup>												
		$\sigma_s$	N/mm <sup>2</sup>												
		$\tau_o$	N/mm <sup>2</sup>												
	許 容 値	$\sigma_{ca}$	N/mm <sup>2</sup>												
		$\sigma_{sa}$	N/mm <sup>2</sup>												
		$\tau_{oa}$	N/mm <sup>2</sup>												
設 計 計 算 書 ・ 項															
設 計 図 ・ 番 号															

# 擁壁工詳細設計調書 (その4)

モーメント図	鉄筋組合せ図	鋼材のかぶり図

# 基礎工詳細設計調書 (その1)

( / )

## 1. 一般事項

業務名		事務所名	
施設名		受注者名	
路線・河川名		照査・ 管理技術者名	
所在地		作成年月日	
距離標	Km	左右岸の別	

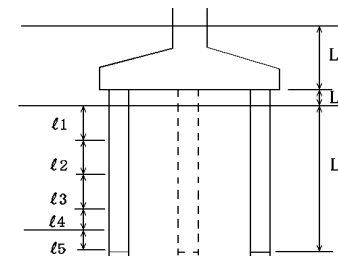
## 2. 基本事項

杭群への 作用力	M	N	H	施工偏心 ΔM	適用基準等
	kN・m	kN	kN	kN・m	
基礎 工 形 態	基礎形式	径(または短辺×長辺)		基礎長	
	杭基礎	mm		m	
	頭部処理	施工方法		先端処理	
	方法B	打込み(打撃)			
	底版の根入深さ	突出長		有効根入長	
	L1= m	L2= m	L3= m		
地層 区 分	l1 = m	l2 = m	l3 = m		
	N1 =	N2 =	N3 =		
	l4 = m	支持層地盤		l5 = m	
	N4 =		N5 =		
基本 デ ー タ	鉄筋材質	コンクリート強度	杭材質	腐食代	
	SKK490	$\sigma_{ck} = \text{N/mm}^2$	鋼管	mm	
	杭頭平均N値	変形係数	ハネ 定数	(常)kH= $\text{kN/m}^3$ Kv= $\text{kN/m}$	
		Eo= $\text{kN/m}^2$		(地)kH= $\text{kN/m}^3$ Kv= $\text{kN/m}$	
	許容支持力(押込)	許容支持力(引抜)	許容支持力(水平)	変位	
安定	(常)	kN/本	kN/本		mm
	(地)	kN/本	kN/本		mm

## 3. 基礎工配置データ

軸 方 向 杭 配 置 デ ー タ	No	距離(X)	奥行方向の本数
	1	m	本
	2	m	本
	3	m	本
	4	m	本
	5	m	本
	6	m	本
	7	m	本
	8	m	本
	9	m	本
10	m	本	

軸 直 角 方 向 杭 配 置 デ ー タ	No	距離(Y)	奥行方向の本数
	1	m	本
	2	m	本
	3	m	本
	4	m	本
	5	m	本
	6	m	本
	7	m	本
	8	m	本
	9	m	本
10	m	本	



注：適用基準等、欄の記載例  
道示 I - 1 ~ 2 (適用基準短縮名一記載頁) で表示する。

# 基礎工詳細設計調書 (その1)

( / )

## 1. 一般事項

業務名		事務所名	
施設名		受注者名	
路線・河川名		照査・ 管理技術者名	
所在地		作成年月日	
距離標	Km	左右岸の別	

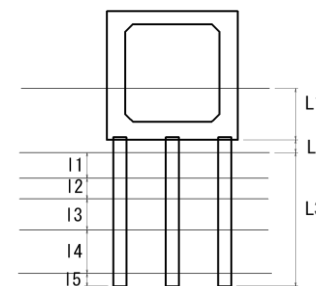
## 2. 基本事項

杭群への 作用力	M	N	H	施工偏心 ΔM	適用基準等
	kN・m	kN	kN	kN・m	
基礎 工 形 態	基礎形式	径(または短辺×長辺)		基礎長	
	杭基礎	mm		m	
	頭部処理	施工方法		先端処理	
	方法B	打込み(打撃)			
	底版の根入深さ	突出長		有効根入長	
	L1= m	L2= m	L3= m		
地層 区 分	l1 = m	l2 = m	l3 = m		
	N1 =	N2 =	N3 =		
	l4 = m	支持層地盤		l5 = m	
	N4 =		N5 =		
基本 デ ー タ	鉄筋材質	コンクリート強度	杭材質	腐食代	
	SKK490	$\sigma_{ck} = \text{N/mm}^2$	鋼管	mm	
	杭頭平均N値	変形係数	ハネ 定数	(常) $kH = \text{kN/m}^3$ $KV = \text{kN/m}$	
		$E_0 = \text{kN/m}^2$		(地) $kH = \text{kN/m}^3$ $KV = \text{kN/m}$	
	許容支持力(押込)	許容支持力(引抜)	許容支持力(水平)	変位	
安 定	(常)	kN/本	kN/本		mm
	(地)	kN/本	kN/本		mm

## 3. 基礎工配置データ

軸 方 向 杭 配 置 デ ー タ	No	距離(X)	奥行方向の本数
	1	m	本
	2	m	本
	3	m	本
	4	m	本
	5	m	本
	6	m	本
	7	m	本
	8	m	本
	9	m	本
10	m	本	

軸 直 角 方 向 杭 配 置 デ ー タ	No	距離(Y)	奥行方向の本数
	1	m	本
	2	m	本
	3	m	本
	4	m	本
	5	m	本
	6	m	本
	7	m	本
	8	m	本
	9	m	本
10	m	本	



注：適用基準等、欄の記載例  
道示 I-1~2 (適用基準短縮名一記載頁) で表示する。

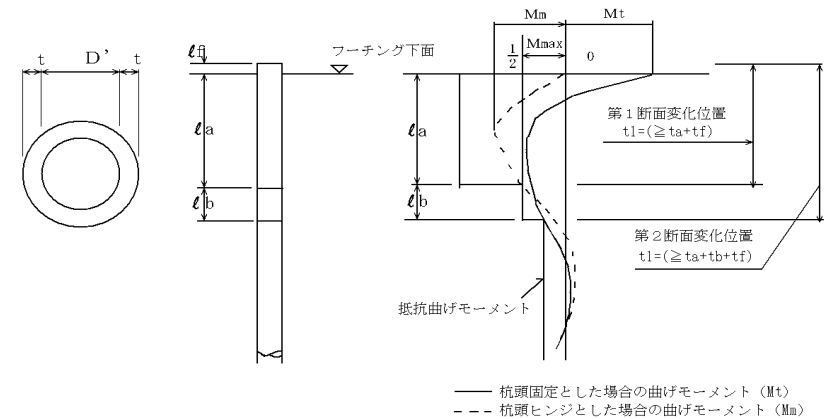
# 基礎工詳細設計調書 (その2)

( / )

軸方向

計算ケース名		単位	常時		地震時		備考	
			浮力無視	浮力考慮	浮力無視	浮力考慮		
安定計算及び杭の計算結果	杭頭外力	偏心量 $e$	m					設計計算書 P 設計図番号 /
		全鉛直力 $\Sigma V$	kN					
		全水平力 $\Sigma H$	kN					
		偏心モーメント $\Sigma M$	kN・m					
	反力変位発生力	杭頭変位量	水平変位 $\delta x$	mm				設計計算書 P 設計図番号 /
			鉛直変位 $\delta z$	mm				
		水平力	1本あたり	kN				
		杭反力	前列 $PN_{max}$	kN/本				
	後列 $PN_{min}$		kN/本					
	最大曲げモーメント	杭頭部 $M_t$	kN・m				設計計算書P 設計図番号 /	
		地中部 $M_m$	kN・m					
	杭体応力	鉄筋又は板厚	$N_{max}$	$\sigma_c$	N/mm <sup>2</sup>			設計計算書 P 設計図番号 /
				$\sigma_s$	N/mm <sup>2</sup>			
		$N_{min}$	$\sigma_c$	N/mm <sup>2</sup>				
			$\sigma_s$	N/mm <sup>2</sup>				
許容支持力	鉛直支持力	kN/本				設計計算書P 設計図番号 /		
	引抜き力	kN/本						
許容応力度	圧縮応力度	N/mm <sup>2</sup>				設計計算書P 設計図番号 /		
	引張応力度	N/mm <sup>2</sup>						
杭頭部計算結果	垂直支圧応力度	発生値	N/mm <sup>2</sup>			設計計算書P 設計図番号 /		
		許容値	N/mm <sup>2</sup>					
	押抜きせん断応力度	発生値	N/mm <sup>2</sup>			設計計算書P 設計図番号 /		
		許容値	N/mm <sup>2</sup>					
	引抜きせん断応力度	発生値	N/mm <sup>2</sup>			設計計算書P 設計図番号 /		
		許容値	N/mm <sup>2</sup>					
水平支圧応力度	発生値	N/mm <sup>2</sup>			設計計算書P 設計図番号 /			
	許容値	N/mm <sup>2</sup>						
水平方向押抜きせん断応力度	発生値	N/mm <sup>2</sup>			設計計算書P 設計図番号 /			
	許容値	N/mm <sup>2</sup>						

計算ケース名		単位	常時		地震時		備考
			浮力無視	浮力考慮	浮力無視	浮力考慮	
仮想RC断面	使用鉄筋量	cm <sup>2</sup>					設計計算書 P 設計図番号 /
	発生値	圧縮応力度	N/mm <sup>2</sup>				
		引張応力度	N/mm <sup>2</sup>				
		せん断応力度	N/mm <sup>2</sup>				
許容値	圧縮応力度	N/mm <sup>2</sup>				設計計算書 P 設計図番号 /	
	引張応力度	N/mm <sup>2</sup>					
	せん断応力度	N/mm <sup>2</sup>					
	せん断応力度	N/mm <sup>2</sup>					
ケーソン基礎	水平方向	使用鉄筋量	cm <sup>2</sup>				設計計算書 P 設計図番号 /
		圧縮応力度	N/mm <sup>2</sup>				
		引張応力度	N/mm <sup>2</sup>				
		せん断応力度	N/mm <sup>2</sup>				
縦方向	使用鉄筋量	cm <sup>2</sup>				設計計算書 P 設計図番号 /	
	圧縮応力度	N/mm <sup>2</sup>					
	引張応力度	N/mm <sup>2</sup>					
	せん断応力度	N/mm <sup>2</sup>					
許容値	圧縮応力度	N/mm <sup>2</sup>				設計計算書 P 設計図番号 /	
	引張応力度	N/mm <sup>2</sup>					
	せん断応力度	N/mm <sup>2</sup>					
	せん断応力度	N/mm <sup>2</sup>					



# 基礎工詳細設計調書 (その3)

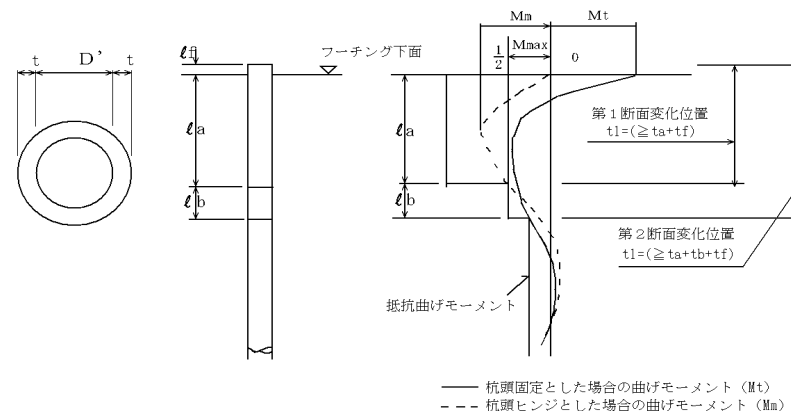
道路(設計調書)

( / )

軸直角方向

計算ケース名		単位	常時		地震時		備考		
			浮力無視	浮力考慮	浮力無視	浮力考慮			
安定計算及び杭の計算結果	杭頭外力	偏心量 $e$	m					設計計算書 P 設計図番号 /	
		全鉛直力 $\Sigma V$	kN						
		全水平力 $\Sigma H$	kN						
		偏心モーメント $\Sigma M$	kN・m						
	反力変位発生力	杭頭変位量	水平変位 $\delta_x$	mm					設計計算書 P 設計図番号 /
			鉛直変位 $\delta_z$	mm					
		水平力	1本あたり	kN					
		杭反力	前列 $PN_{max}$	kN/本					
	後列 $PN_{min}$		kN/本						
	最大曲げモーメント	杭頭部 $M_t$	kN・m					設計計算書P 設計図番号 /	
		地中部 $M_m$	kN・m						
	杭体応力	鉄筋又は板厚	$N_{max}$	$\sigma_c$	N/mm <sup>2</sup>				設計計算書 P 設計図番号 /
				$\sigma_s$	N/mm <sup>2</sup>				
		$N_{min}$	$\sigma_c$	N/mm <sup>2</sup>					
			$\sigma_s$	N/mm <sup>2</sup>					
許容支持力	鉛直支持力	kN/本					設計計算書P 設計図番号 /		
	引抜き力	kN/本							
許容応力度	圧縮応力度	N/mm <sup>2</sup>					設計計算書P 設計図番号 /		
	引張応力度	N/mm <sup>2</sup>							
杭頭部計算結果	垂直支圧応力度	発生値	N/mm <sup>2</sup>				設計計算書P 設計図番号 /		
		許容値	N/mm <sup>2</sup>						
	押抜きせん断応力度	発生値	N/mm <sup>2</sup>				設計計算書P 設計図番号 /		
		許容値	N/mm <sup>2</sup>						
	引抜きせん断応力度	発生値	N/mm <sup>2</sup>				設計計算書P 設計図番号 /		
		許容値	N/mm <sup>2</sup>						
水平支圧応力度	発生値	N/mm <sup>2</sup>				設計計算書P 設計図番号 /			
	許容値	N/mm <sup>2</sup>							
水平方向押抜きせん断応力度	発生値	N/mm <sup>2</sup>				設計計算書P 設計図番号 /			

計算ケース名		単位	常時		地震時		備考
			浮力無視	浮力考慮	浮力無視	浮力考慮	
仮想RC断面	使用鉄筋量		cm <sup>2</sup>				設計計算書 P 設計図番号 /
	発生値	圧縮応力度	N/mm <sup>2</sup>				
		引張応力度	N/mm <sup>2</sup>				
		せん断応力度	N/mm <sup>2</sup>				
	許容値	圧縮応力度	N/mm <sup>2</sup>				設計計算書 P 設計図番号 /
		引張応力度	N/mm <sup>2</sup>				
せん断応力度		N/mm <sup>2</sup>					
ケーソン基礎	水平方向	使用鉄筋量	cm <sup>2</sup>				設計計算書 P 設計図番号 /
		圧縮応力度	N/mm <sup>2</sup>				
		引張応力度	N/mm <sup>2</sup>				
		せん断応力度	N/mm <sup>2</sup>				
	縦方向	使用鉄筋量	cm <sup>2</sup>				設計計算書 P 設計図番号 /
圧縮応力度		N/mm <sup>2</sup>					
引張応力度		N/mm <sup>2</sup>					
せん断応力度		N/mm <sup>2</sup>					
許容値	圧縮応力度	N/mm <sup>2</sup>				設計計算書 P 設計図番号 /	
	引張応力度	N/mm <sup>2</sup>					
	せん断応力度	N/mm <sup>2</sup>					





# 基礎工(地盤改良工) 詳細設計調書 (その1)

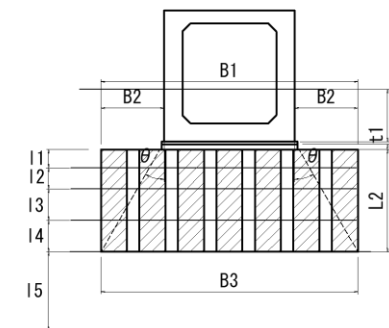
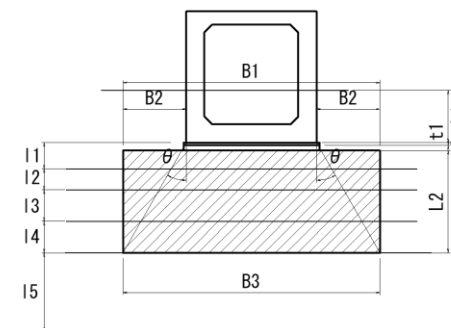
( / )

## 1. 一般事項

業務名		事務所名	
施設名		受注者名	
路線・河川名		照査・ 管理技術者名	
所在地		作成年月日	
距離標	Km	左右岸の別	

## 2. 基本事項

基礎 工 形 態	改良工法		対策工法		適用基準等
	上面改良幅 B1	m	改良張出幅 B2	m	
	下面改良幅 B3	m	分散角 $\theta$	°	
	根入れ深さ L1	m	改良深さ L2	m	
	均しコンクリート厚 t1	mm	基礎材厚 t2	mm	
地 層 区 分	$l_1 =$ m	$l_2 =$ m	$l_3 =$ m		
	$N_1 =$	$N_2 =$	$N_3 =$		
	$l_4 =$ m	支持層地盤	$l_5 =$ m		
	$N_4 =$		$N_5 =$		
基本 デ ー タ	最大地盤反力度	$Q_{max} =$ kN/m <sup>2</sup>	(均しコンクリート、基礎材考慮)		
	設計基準強度	$qu_{ck} =$ kN/m <sup>2</sup>	改良杭径	$\phi =$ m	
	改良率	$ap =$ %	置換土単位重量	$\gamma =$ kN/m <sup>3</sup>	
	配合参考値				
	室内目標強度	$qu_1 =$ kN/m <sup>2</sup>	固化材添加量	kg/m <sup>3</sup>	
	改良体底面支持力	許容支持力			
安 定	kN/m <sup>2</sup>	kN/m <sup>2</sup>			



注：適用基準等、欄の記載例  
道示 I - 1 ~ 2 (適用基準短縮名一記載頁) で表示する。

# 平面交差点詳細設計調書 (その1)

## 1. 計画概要

業務名							
所在地							
事務所名	工事事務所						
受注者名	(照査・管理技術者名)						
作成年月日	平成 年 月 日						
事業区分	点(交差点)・線(道路)・面(地域)の改良・新設(○印)						
全体計画	km		今回計画(内数)			km	
事業計画	事業着手	年	月	～	年	月	
	用地買収期間(予定)	年	月		年	月	
	工事着手(予定)	年	月		年	月	
	工事完了(予定)	年	月		年	月	
道路名	主道路						
	主道路						
	従道路						
	従道路						
道路の構造・規格	主従の別	道路区分	設計速度(km/h)	最急縦断勾配(%)	最小曲線半径(m)	標準横断面構成(m)	
	主	種 級				全幅 m	
	主	種 級				全幅 m	
	従	種 級				全幅 m	
	従	種 級				全幅 m	
標準横断面図							
主							
従							

※下段は適用基準等、発行年月日と適合ページを記入する。

## 2. 交差点計画

交差点名	通称・番号・記号等						
交差点部設計計画	交差点制御方法(信号制御・一時停止)						
	主従の別	設計車両(○印)	交差点付近の設計速度	交差点付近横断勾配・区間距離	曲線半径(m)	交差角度	
	主	小型車 普通車					
	従	セミトレ				度	
右左折車通行方法				導流路曲線半径(m)		導流路幅員(m)	
主	方面から	右折		外側	内側		
		左折		外側	内側		
	方面から	右折		外側	内側		
		左折		外側	内側		
従	方面から	右折		外側	内側		
		左折		外側	内側		
	方面から	右折		外側	内側		
		左折		外側	内側		
交通量	主			従			
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・現況</li> <li>・予測</li> <li>・車種別</li> <li>・方向別</li> <li>・歩行者</li> <li>・特異交通流等</li> </ul>						
付設車線設置計画	主			従			
	計画有・無(○印) 右折・左折車線(○印) 付加車線(折)の必要性			計画有・無(○印) 右折・左折車線(○印) 付加車線(折)の必要性			
	(有・無)			(有・無)			
	滞留長 テーパー長(減速車線長) m			滞留長 テーパー長(減速車線長) m			
付加車線幅員 m			付加車線幅員 m				
本線シフト区間長 m			本線シフト区間長 m				

■ 交差点計画

		主道路						従道路					
交差点交差角(°)													
方向		①			②			③			④		
路線名													
道路規格													
設計速度(km/h)													
規制速度(Km/h)													
平面曲線半径(m)													
縦断勾配(%)													
緩勾配(%)													
縦断緩勾配区間長(m)													
幅員構成(断面図)		単路部			交差点部			単路部			交差点部		
設計車両													
導流路	通行方法	導流路半径		導流路幅員	通行方法	導流路半径		導流路幅員	導流路	通行方法	導流路半径		導流路幅員
	右折	→	外側:	内側:		→	外側:	内側:		→	外側:	内側:	
	左折	→	外側:	内側:		→	外側:	内側:		→	外側:	内側:	
隅切り半径													
付加車線	計算式	構造令による最小値		採用値	計算式	構造令による最小値		採用値	付加車線	計算式	構造令による最小値		採用値
本線シフト長(m)													
テーパー長(m)													
滞留長(m)													
交差点交差角(°)													
方向		③			④			③			④		
路線名													
道路規格													
設計速度(km/h)													
規制速度(Km/h)													
平面曲線半径(m)													
縦断勾配(%)													
緩勾配(%)													
縦断緩勾配区間長(m)													
幅員構成(断面図)		単路部			交差点部			単路部			交差点部		
設計車両													
導流路	通行方法	導流路半径		導流路幅員	通行方法	導流路半径		導流路幅員	導流路	通行方法	導流路半径		導流路幅員
	右折	→	外側:	内側:		→	外側:	内側:		→	外側:	内側:	
	左折	→	外側:	内側:		→	外側:	内側:		→	外側:	内側:	
隅切り半径													
付加車線	計算式	構造令による最小値		採用値	計算式	構造令による最小値		採用値	付加車線	計算式	構造令による最小値		採用値
本線シフト長(m)													
テーパー長(m)													
滞留長(m)													

・交差点図(制御方式: 信号 ・ 一時停止)

※流入番号を記すこと。

■需要率計算

交差点名		①		②		③		④	
流入部		直進・左折	右折	直進・左折	右折	直進・左折	右折	直進・左折	右折
車線の種類									
車線数									
飽和交通流率の基本値	S B								
車線幅員による補正率	$\alpha W$								
(車線幅員)	m								
縦断勾配による補正率	$\alpha G$								
(縦断勾配)	%								
大型車混入による補正率	$\alpha T$								
(大型車混入率)	%								
左折車混入による補正率	$\alpha L T$								
(左折率)	L %								
(歩行者による低減率)	f p								
(有効青時間)	秒								
(歩行者用青時間)	秒								
横断歩行者による補正率	$\alpha L$								
右折車混入による補正率	$\alpha R T$								
(右折率)	R %								
(右折車の通過確率)	f								
(有効青時間)	秒								
(現示変り目のさげ台数増分)									
	KER : 台/サイクル								
(交差点内滞留台数)									
	K : 台/サイクル								
飽和交通流率	S								
設計交通量	q								
右折補正交通量	q R-N								
交差点流入部の需要率									
必要現示率	1 $\phi$								
	2 $\phi$								
	3 $\phi$								
	4 $\phi$								
有効青時間(秒)	1 $\phi$								
	2 $\phi$								
	3 $\phi$								
	4 $\phi$								
信号青時間比	G / C								
可能交通容量	C i								
交通容量比	q / C i								
交通処理案のチェック									
滞留長	L s (m)								

現示の 需要率	交差点 の需要率

■交差点概略図

■交通量図( 年度、 値)

※対象年次と観測値か推計値かを記すこと

■信号現示

## 平面交差点詳細設計調書 (その2)

### 3. 道路管理者所管の交通安全施設等の計画

視 道 防 歩	線 路 照 明 標 明 柵 護 道	(有・無) (交差点部 ・ 計画区間全線) (有・無) (交差点部 ・ 計画区間全線) (有・無) (交差点部 ・ 計画区間全線) (有・無) (歩車道境界 ・ 路外境界線) (有・無) (両側 ・ 片側) (歩車道境界ブロックの高さ cm) (マウンドアップ ・ フラット)
		・計画区間内のバス停留所の有無 (有・無) ・交差点付近のバス停留所の有無 (有・無) ・バス停留所の有無(有・無) ・ 必要性の有無(有・無) ・バス停留所の位置の適否 ( 交差点 流出側 ・ 流入側 ) ( 見通し 良 ・ 不良 )
通 学 路		通学路の指定 (有・無) 将来の可能性 (有・無)
そ の 他		

※道路照明、バス停、通学路の位置等は、図面上に正確に図示すること。

### 4. 交通規制計画

線 の 規 制	主	現 況	事業後
	従	現 況	事業後
点 の 規 制	主	現 況	事業後
	従	現 況	事業後
信 号 機		交 差 点 名 概設信号機 ( 有 ・ 無 ) 信号運用状況 三色(時間 ~ ) 点灯(時間 ~ ) 滅灯(時間 ~ ) 移設、増灯の必要性 ( 有 ・ 無 ) 新設の必要性 ( 有 ・ 無 )	
横 断 歩 道 ・ 自 転 車 横 断 帯			
そ の 他			

### 5. 事業計画上的問題点及び今後の調整事項